

日本外交文書

大正十五年 第二冊 下卷

外務省

序

外務省では、明治維新以降のわが国外交の経緯を明らかにし、あわせて外交交渉上の先例ともなりうる基本的史料を提供する目的で、昭和十一年『日本外交文書』第一巻を公刊した。その後、戦争による中断はあったが、戦後、編さん事業を再開して、昭和三十八年には明治期の刊行を終え、大正期も今回『大正十五年第二冊下巻』の刊行をもって完結をみるに至った。

また、昭和期についてもすでに編さんに着手し、特集として満州事変（全七冊）及び海軍軍縮会議関係（全八冊）を公刊した。

最近わが国をめぐる国際環境はいよいよ複雑多岐となってきたが、本書に収録された外交史料が対外交渉上の参考となり、また近代日本外交の歴史的研究に寄与することになれば幸いである。

昭和六十二年三月

外務省外交史料館長

例 言

一、本書に収録された文書は、原則として外務省所蔵記録である。

二、これらの文書を編さんしてできた本書の各分冊は、本年度については次の要領で区分される。

第一冊 国際会議、日ソ関係その他

第二冊 日中関係、その他

三、各分冊には原則として当該暦年限りの文書が収録され、これらの文書は、それぞれの事項の下に、文書の日付により暦日順に配列されている。

在外公館より本省宛電報については、発電日付を採用した。ただし発電日の不明なものは着電日を採用し、表題の日付の下に（着）を付した。

四、本書に収録された文書は、原則として原書の完全な再現であり、編さんに当って原書の改変、削除、簡略化などは行なわれていない。ただし明らかな誤字はこれを訂正した。

使用漢字については、固有名詞など特別な場合を除いては、当用漢字を用いることとした。

五、各分冊に当該分冊限りの日付順索引を付した。

目次

六	北京関税特別会議関係	七一
七	中国治外法権委員会会議関係	八六
	付 上海会審衙門還付交渉	九三
八	国民政府ノ関税付加税実施ヲ繞ル諸問題	一〇二
九	東三省鉄道問題	一二三
	(1) 一般	一二三
	(2) 洮齊鉄道関係	一二七
	(3) 吉敦鉄道関係	一二九
	(4) 賓黒鉄道関係	一三〇
	(5) 打通鉄道関係	一三五
	(6) 吉海鉄道関係	一三七
	(7) 洮索鉄道関係	一三五
一〇	雑件	一四〇
	(1) 中国ヘノ武器供給問題	一四〇

(2) 万県事件	一四二九
(3) 宣統帝ノ動靜	一四六五

付録 日本外交文書 大正十五年第二冊(上・下卷) 日付索引

(以上 下卷)

- 一 北京政府ト一般政況
- 二 国民政府ノ動靜並ニ国民革命軍ノ北伐關係
- 三 日中通商条約改訂問題
- 四 大沽事件
- 五 奉票暴落問題等ニ関スル奉天省政府トノ交渉

(以上 上卷)

事項六 北京関税特別會議關係

六八六 一月八日(着)

在北京関税特別會議帝國代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

華府付加税ニ関スル第六回非公式会合ノ議事

報告ノ件

関会第一八五号

往電関会第一八一号ニ関シ

一月六日和蘭公使館ニ於テ第六回非公式会合開催出席者米
国側ハ「マクマレー」其他前回ノ通

(一) 顔惠慶ヨリ現行輸入税率ヲ現実五分ニ改訂セル場合ノ計
算並ニ日英米伊各整理案ノ詳細ナル比較表ヲ提出セリ

(二) 仏国全権ハ四日配布ノ自国案(郵報濟)ニ付説明シ

(三) 和蘭全権ハ今日迄ニ提出セラレタル各国家案中ニハ華府会
議所定ノ範圍以上ニ出テタルモノ多キ処若シ右範圍ヲ超
ユヘカラストスレハ之等ノ案ハ論議ノ余地ナキ事トナル
ヘキヲ以テ右範圍内ニ限ルヘキヤ否ヤカ先決問題ナリ現
ニ日本案ノ如キ華府条約所定ノ付加税ヲ以テ足ルトナシ
居レリト云ヘルニ白国全権ハ本国政府ヨリ支那ヲ援助ス
ヘシトノ訓令ヲ受ケ居ル次第ニシテ自分ハ華府會議以上

六 北京関税特別會議關係 六八六

ニ亙リ論スルモ差支ナシト述ヘ「マクマレー」モ亦米國
側トシテハ華府會議所定以上ニ亙ル事ハ差支ナキ旨ヲ述
ヘタリ芳沢ハ日本ハ二分五厘及五分案ヲ主張シ居ルモ同
時ニ支那ヲ援助シタキ希望ヲ有ス此ノ見地ニ基キ目下当
方ニテモ研究中ナルカ要スルニ現行税ニ二分五厘ノ付加
税ヲ加ヘタル七分五厘ヲ「ミニマム」トシ差等率ヲ設ケ
ントスル考案ナルカ右ニ就テハ政府ニ請訓スル必要モ有
リ旁々未タ確定ニ至ラスト告ケ置タリ

(四) 「ピール」ハ各国ノ案中ニハ甚シキ高率ヲ承認スヘシト
ナスモノアルモ俄カニ賛スル能ハスト述ヘ且自国案ニ就
キ鉄道公債ハ之カ担保トナレル鉄道收入ヲ以テ支払ヲ為
シ能ハサル時追加担保トシテ関税收入ヨリ支払ヲ為スコ
シトノ点ヲ説明セルニ白、仏、蘭全権モ亦此ノ点ニ関シ
何レモ同様ノ希望ヲ有スト云ヘリ「ピール」ハ尚顔ニ対
シ支那側ニ於テモ本問題ヲ研究セン事ヲ求メタリ

(五) 顔及和蘭全権ハ成ルヘク速ニ日本側ノ提案ヲ求メタルニ
付芳沢ハ目下考究中ニテ成ルヘク速ニ提出スル様努ム可

七一九